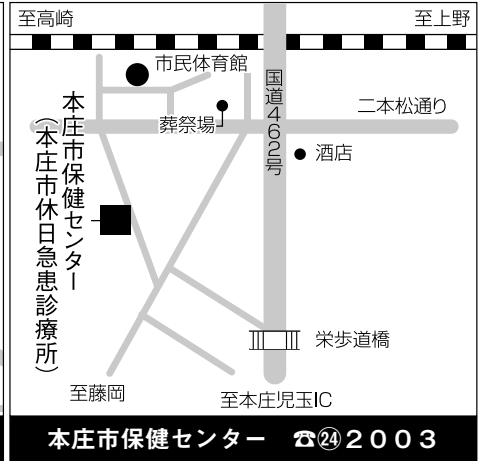


みんなのけんこうガイド



本庄市保健センター
※講座等の申し込みは、
午前8時30分からです。



●乳幼児健康診査・健康相談

【受付時間】★印…午後1時～1時30分、☆印…午前9時30分～10時

※対象者には通知します。

内容	対象となる人（お住まいの地域）	日程	会場
★3～4か月児健康診査	平成20年10月生まれ（本庄地域）	2月25日(水)	本庄市保健センター
	平成20年10月～11月生まれ（児玉地域）	3月19日(木)	児玉保健センター
☆9～10か月児健康相談	平成20年4月生まれ（市内全域）	2月25日(水)	本庄市保健センター
★1歳6か月児健康診査	平成19年7月生まれ（本庄地域）	2月23日(月)	本庄市保健センター
	平成19年7月～8月生まれ（児玉地域）	3月18日(水)	児玉保健センター
☆2歳児健康相談	平成19年1月生まれ（市内全域）	2月24日(火)	本庄市保健センター
★3歳児健康診査	平成18年1月生まれ（本庄地域）	2月24日(火)	本庄市保健センター
	平成18年1月～2月生まれ（児玉地域）	3月17日(火)	児玉保健センター

●育児相談・学級

【会場】児玉保健センター

※電話による育児相談は随時受け付けています。各相談・教室の予約は、本庄市保健センター(☎242003)へ。

内容	対象となる人	日時	その他	
すくすく相談 (育児・栄養相談、計測)	相談・計測希望の人	2月13日(金) 午前9時30分～11時	前日までに電話予約してください。	
母乳相談	母乳のことで相談がある人	2月13日(金) 午前9時30分～11時	前日までに電話予約してください。	
コアラクラス (育児学級)	6～7か月児とその保護者 (平成20年7月生まれ)	2月17日(火) 午前9時30分～11時30分	不明な点はお問い合わせください。	
カンガルー広場 (情報交換・友達づくりの場)	0～2歳児とその保護者	2月2日(月)・3月2日(月) 午前9時30分～正午	おやつを持ち込みはできません。	
おや親タマゴ	マタニティ エクササイズ	これからママになる人 ※会場：シルクドーム	2月4日(水)・3月4日(水) 午前10時～正午	先着20組。事前に電話予約してください。
	母乳・沐浴	これからママ・パパになる人	3月7日(土) 午前9時30分～正午	先着20組。事前に電話予約してください。

ください。(お持ちでない人は保健センターまで)



忘れずに接種しましょう

①二種混合（ジフテリア・破傷風） 予防接種のお知らせ

小学6年生になってから、まだ予防接種を受けていないお子さんは、体調のよい時に、早めに予防接種を受けてください。（13歳未満の人が対象です。）

接種期間 3月31日(火)まで

②麻しん・風しん予防接種のお知らせ

麻しん（はしか）は、1回のみ、予防接種では免疫力が低下するため、2回接種になりました。

次に該当する人は、早めに予防接種を受けてください。

平成20年度の接種対象者

- 1期：生後12～24月未満
 - 2期：平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれ
 - 3期：平成7年4月2日～平成8年4月1日生まれ
 - 4期：平成2年4月2日～平成3年4月1日生まれ
- 接種期間** 2・3・4期は、3月31日(火)まで

*お問い合わせは各保健センターへ

『上手にヘルスアップ』
今のままで大丈夫!? 正しく知って防ぐメタボリックシンドローム

動脈硬化が進行して起こる心臓病や脳梗塞・糖尿病などを引き起こすとして注目されているメタボリックシンドローム。専門的な立場から、医師にお話をさせていただきます。メタボリックシンドロームについて詳しく知るチャンスです。

日時 2月18日(水) 午後1時30分～3時

会場 本庄市保健センター

対象者 おおむね30～64歳の市内在住者

内容 医師からの講話

定員 20人（多数の場合抽選）

申込 2月13日(金)までに本庄市保健センターへ

インフルエンザを予防しましょう!

日常生活での予防ポイントです

- ①帰宅時には必ず手洗い・うがいをする
- ②流行期はなるべく人混みを避ける
- ③外出時はマスクを着用する
- ④バランスの良い食事や十分な休養をとる
- ⑤部屋が乾燥しないように注意する

医療メモ

本庄市児玉郡医師会広報部

新しい胃がん検診について



わが国の胃がん検診は、1960年代から40年以上にわたって、間接胃X線検査が疫学的にも証明された方法として用いられてきましたが、最近では安価で負担の少ない、『ペプシノゲン法』という検査が一般にも普及しつつあります。このペプシノ

ゲン法は、胃で分泌され、微量ながら血中に存在する『ペプシノゲン』という消化酵素を測定することによって、胃粘膜の萎縮の程度を判定する方法です。この方法により、萎縮性胃炎の進んだ人に対して、内視鏡検査を行うことで胃がん、特に分化型と呼ばれる早期胃がんを発見しやすくなります。

ペプシノゲン法では、異なる2種類の酵素であるペプシノゲンIとペプシノゲンIIの分泌量及び割合で診断を行います。ペプシノゲンIとペプシノゲンIIの値は、ほぼ胃酸分泌に相関していて、およそ3対1の割合で存在します。胃粘液の萎縮が進み、胃酸分泌が低下するとペプシノ

ゲンIの値も、I/IIの比も萎縮の程度を反映して低下します。多くの場合、ペプシノゲンIが70μg以下かつI/IIの比が3・0以下の値の組み合わせが、胃がん検診時の基準値となっています。この基準値以下の受診者は、胃粘膜の萎縮が進んだ胃がんの確率が高いと考えられ、内視鏡による精密検査が必要です。また、その年に胃がんが発見されなくても、今後も胃がんになる確率が高いため、精密検査を毎年繰り返し行う対象となります。

ペプシノゲン法による胃がん検診には、受診者の精神的・肉体的負担が少ない、検診費用が安くすむ、一度に多くの受診者の検診ができる、という利点があるため、一般健診と同時に実施が可能です。また、診断の結果が検査を行う担当者の技量に左右されずに客観的で、精度管理も容易です。ただ一方で、ペプシノゲン陰性胃がんといって、分化型ではない胃がんは発見されない、というデメリットがあります。

今後、胃がん検診の受診者は従来の間接胃X線検査のみでは受診率が低いので、ペプシノゲン法による簡単な血液検査で胃がんの確率が高い受診者を発見し、その後の二次検査で内視鏡検査を行うことが検診率を上げることにつながり、ひいては胃がん発見率を向上させるものと思われれます。